

会議名称：全学教育推進機構 組織別内部質保証委員会

日時：令和6年4月30日（金）12:00~13:00

場所：第1会議室

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	<p>2023年度の本プログラムにおける学生の受講状況、そして受講後に収集したアンケートから、プログラムの履修・修得情報は次のようにまとめることができる。学習マネジメントシステムに登録された履修者は714名となり、2022年度のプログラム履修者445名から1.6倍の増加となった。714名の履修者のうち、546名が合格し単位を取得した。合格となった学生の平均点は、78.4点となっており、成績の分布は秀：10%、優：28%、良：20%、可：18%、不可：24%となった。2022年度のプログラムでは、平均78.8点、秀：10%、優：28%、良：25%、可：14%、不可：24%となっており、履修者増以外はおおむね同等の状況であったものと推察される。本授業では、指定された期間内に教材を閲覧し、出題された課題についても期限内の提出が求められる。学習マネジメントシステムからは、合格した学生の平均課題提出数14.3回（総課題数は15回）となっており、「可」以上の評価を受けた学生は、学習コースの内容について漏れなく十分に取り組んだものと考えられる。</p>
学修成果	<p>出題した課題の採点状況から、合格した学生についてはほぼすべての授業回について、学習期間内に課題の提出が実現された。また、合格者の平均点は78.4点であり、課題の内容理解においても、十分な成果が得られているものと考えられる。授業後に実施したアンケート調査では、その中で「この授業を通じて、知識が深まった、能力が高まったと感じますか」という質問項目については、246名の回答があり、84.1%の学生が「そう思う・どちらかといえばそう思う」のポジティブな回答となった。本授業で学習者が授業内容について学びを深め、その成果をきちんと身に付ける状況が実現できているものと考えられる。また、2022年度では、この質問に対するポジティブな回答は73.4%であったことから、2022年度から受講者の感想の観点からは改善が見られているものと考えられる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>授業後に学生に対して実施したアンケート調査では、前述の通り、「この授業を通じて、知識が深まった、能力が高まったと感じますか」という質問項目について高い評価を得ることができた。また、「この授業に意欲的にとりくみましたか?」という質問に対して、247名の回答のうち、85.0%の学生が「そう思う・どちらかといえばそう思う」のポジティブな回答となった。履修・習得状況にて紹介した成績の分布状況も鑑みると、本授業に真剣に取り組み、合格の評価を得た学生については、十分な理解が得られているものと考えられる。一方、アンケートの回答者数を見ると、たとえば、「この授業を通じて、知識が深まった、能力が高まったと感じますか」という質問については、2022年度は445名中252名の回答を得ることができたのに対し、2023年度については714名中246名の回答にとどまっている。2023年度のアンケート結果は、全般的に2022年度よりも良いと考えられる状況ではあるものの、これは、2023年度のアンケートの回答者がモチベーションの高い学生に偏ったということを示唆しているとも考えられる。引き続きより多くの学生のレスポンスを収集することが必要である。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>2023年度は714名履修者を得ることができ、これは、2022年度の445名と比べると約1.6倍となった。2024年度についても、新入生に対しては入学前の特設サイトを通じたプログラムの紹介、入学後における学内広報、履修要項や履修ガイダンスを通じた周知を継続する。また、2年次以上の学生への告知についても引き続き実施する。</p>
授業改善の取り組み	<p>授業後に実施したアンケートでは、「テキストおよび講義資料等は、授業を理解するために十分な分量・内容だったと思いますか?」の質問では、248名の回答があり、72.2%の学生が、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答している。同アンケートは、2022年度では64.7%の学生が、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答していたため、この部分についても改善がみられているものと考えられる。本授業では、「学ぶ楽しさ」を、概念だけではなく実習による体験を通じて学生に提供する。また、「学ぶことの意義」を、机上の空論にとどまらず、身近な事例によるデータサイエンスの有用性を感じ取ることができる題材を通じて学生に提供する。このため、本授業では、教材や取り上げる内容について継続的に見直しを行い、可能な範囲で最新の話題やトレンドに沿った題材を取り入れる試みを実施中である。2024年度についても、これまでの実施で学生から得られたアンケート結果も参考に内容に調整をくわえ、学生にとって身近な題材がデータサイエンスの視点を通してどのように捉えられるかを、体験的に学ぶことができる授業を目指す。また、2024年は教育学習に関する学内プロジェクトに応募しており、コースの一部について、学生のコンテンツ閲覧状況などに関する情報収集を強化する予定である。これらの成果も活用し、授業のさらなる改善を行う予定である。</p>